コミュニティ・スクール　津屋崎中学校

学 校 通 信

令和元年　９月６日
教務担当　主幹教諭
國廣　信弥

全国学力・学習状況調査について

第3学年を対象に，平成31年４月18日（木）に実施された全国学力・学習状況調査（国語，数学，英語，生徒質問紙）をお知らせします。また，この調査結果をもとに本校教育の成果と課題を分析し，今後の改善・充実のための取組をお知らせいたします。本年度は第1・2 学年を対象に，６月18日(火)に実施された福岡県学力調査の結果は後日お知らせします。

1　全国学力・学習状況調査とは

【　調査の目的　】

◇　全国学力・学習状況調査

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【　調査の内容　】

	実施学年	調査内容・問題の類型	
全国学力・学習状況調査	第３学年	国語	「話すこと・聞くこと」,「書くこと」,「読むこと」に基づいて，全体を視野に入れながら，中心的に取り上げるものを精選した問題
		数学	基礎的・基本的な知識及び技能や，その知識及び技能が，問題解決をしていく過程でどのように用いられているかについて明確にした出題
		英語	「聞くこと」,「話すこと」,「読むこと」,「書くこと」に基づいて，言語材料や言語活動がバランスよく出題
		生徒質問紙	学校や家庭での生活の様子や国語・数学の興味関心等を選択式で問うアンケート。

以上の目的と内容を踏まえ，本校では学力状況調査問題を次のようにとらえています。

調査の結果は，生徒が身につけるべき全ての学力を示すものではなく，単に，正答率に注視することで終わるのではなく，現状の分析と今後の取組，例えば課題を解消するための授業指導技術の向上の大切な資料として活用します。また，学校だけの成果や課題で完結するのではなく，コミュニティ・スクールの強みを生かし，学校・家庭・地域の三者が協働して子ども達の学力向上に取り組んでいきます。

2　本校の平均正答率

国語，数学につては，全国平均とほぼ同じでした。 英語については，全国平均より下回っていました。

3　分析と改善策

（1）全体として

今年度の全国学力調査では，新学習指導要領の考え方から，従来の国語・数学は「主として『知識』に関する問題」A問題と「主として『活用』に関する問題」B問題を一体的に問う問題に変更され，新たに「英語」が導入されました。

国語	分析	〈成果〉 ○文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつ問題の文章中から必要な情報を読み取る問題は，県・全国平均を上回っていた。 ○相手に分かりやすく伝わる表現について理解する問題はおおむねできていた。 〈課題〉 ●封筒の書き方を理解し，文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題がある。 ●話合いの話題や方向を捉えることはできているが，それを踏まえて自分の考えをもつことに課題がある。
	継続内容と改善点	・各学年における記述に関する指導を意図的・計画的に行うとともに，小学校での学習を踏まえ，自分の考えの根拠として用いる情報が適切かどうかを検討したり，自分の考えとの関係が分かるように記述したりするように指導していきます。 ・各学年における話し合うことに関する指導を意図的・計画的に行うとともに，話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関係を図って指導していきます。 ○文章中から必要な情報を読み取る力については，昨年度から行っている朝読書や週末課題（コラムの書き写し）の取組による成果と考えています。2学期からはさらに，通常の新聞の記事等の書き写しも取り組んでいきます。 授業においては，条件に沿って書く活動を今まで以上に取り入れていきます。さらに，理解を深めるために，過去の全国調査の問題や公立入試の問題を活用して，考える道筋や資料活用の取組を多く行います。特に，資料を活用する問題は，説明する力が求められており，すべての教科に共通する課題のため，取組を強化していきます。
数学	分析	〈成果〉 ○簡単な連立二元一次方程式を解く問題について,改善の傾向が見られた。 ○結論が成り立つための前提を考え,新たな事柄を見いだし,説明する問題や問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することを試す問題に関して，県・全国平均を上回っていた。 ○簡単な場合について，確率を求めることができる問題の正答率は県・全国平均を大きく上回っていた。 〈課題〉 ●証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していない。 ●資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 ●事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
	継続内容と改善点	・数と式については，目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実させていく。 ・図形の指導においては，結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見いだし，説明する活動の充実を図る。具体的には，ある結論が成り立つ事柄について前提を変えたときに，同じ結論が成り立つかどうかを検討する場面を設定していく。 ・資料の活用については，データの分布の傾向を読み取り，判断することを通して，統計的に問題解決する活動の充実を図っていく。 ○　学習の流れを大切に，めあて，まとめを意識させます。特に，毎回の授業で「見通し」を持たせるようにし，問題の理解や計算の意味について深めていけるようにします。 ○　関心や意欲を引き出すために，生活と結び付けた課題を取り上げた問題や生徒が主体的に「取り組もう」という必然性を持たせる授業に改善していきます。

英語	分析	〈成果〉 ○日常的な話題について，簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る問題は，県・全国平均を上回っていた。 ○話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり,読み取ったりすることは,おおむねできていた。 〈課題〉 ●目的・場面・状況に応じて，話し手や書き手の伝えたいことは何かを理解するなど，概要や要点を捉えることに課題がある。 ●基本的な語や文法事項等の知識を活用することに課題があり，与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くときにおいても，相手に伝わる英語で表現することができていないと考えられる。
	継続内容と改善点	・一文一文を聞き取る・読み取るだけでなく，目的・場面・状況等に応じて聞く・読む言語活動を充実させていきます。 ・文法事項等を言語活動の中で理解し定着させていきます。(和文に対応した穴埋めや語順整序だけではなく)。 ・即興のやり取りをはじめとして，話すこと・書くことの言語活動を充実させます。 ○普段の授業で，スピーチやプレゼンテーションなど，まとまった内容を英語で発表するような言語活動を多く取り入れていきます。また，生徒の関心があるような話題を多く取り扱っていきます。 ○授業の中で，生徒同士のコミュニケーションの場面を多く取り上げていきます。

4 生徒質問紙(アンケート)から

アンケートの結果の一部を取り出して,お知らせいたします。

※△:県・全国より高い項目　▼:県全国より低い項目

質　問　項　目	本校(%)	県(%)	全国(%)
①自分には,良いところがあると思いますか。	▼70.0	73.2	74.1
②学校のきまり(規則)を守っていますか。	△98.4	96.3	96.2
③将来の夢や目標を持っていますか。	▼66.7	71.4	70.5
④人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	△95.0	95.0	94.3
⑤人が困っているときは,進んで助けていますか。	△89.2	85.4	85.9
⑥今住んでいる地域の行事に参加していますか。	△55.0	46.5	50.8
⑦地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	▼34.1	38.3	39.4
⑧日本やあなたが住んでいる地域のことについて,外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。	▼56.6	59.3	59.3
⑨国語の授業で学習したことは,将来,社会に出たときに役に立つと思いますか。	△90.0	89.5	88.0
⑩数学の授業で学習したことは,将来,社会に出たときに役に立つと思いますか。	△85.0	78.7	76.2
⑪英語の授業で学習したことは,将来,社会に出たときに役に立つと思いますか。	▼81.7	85.5	85.4
⑫1,2年生のときに受けた授業では,課題の解決に向けて,自分で考え,自分から取り組んでいたと思いますか	▼73.3	73.7	74.8
⑬1,2年生のときに受けた授業で,自分の考えを発表する機会では,自分の考えがうまく伝わるよう,資料や文章,話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。	▼45.0	51.0	55.8
⑭家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	▼40.8	46.9	50.4
⑮学校の授業時間以外に,普段(月曜日から金曜日),1日1時間以上,勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わってる時間も含む)	▼56.7	65.3	69.8
⑯読書は好きですか。	66.7	66.3	68.0
⑰新聞を読んでいますか。	10.8	9.7	12.7

≪将来について≫

○　①～⑤から,きまりをきちんと守ることの規範意識はあるが,自分には良いところがあるといった自尊感情は低いことがわかります。また,人の役に立つ人間になりたいという生徒が多いにもかかわらず,将来の夢や目標を持ち切れていない生徒が多いこともわかります。

≪地域との関係について≫

○　⑥～⑧から,県・全国に比べ,地域の行事に参加している割合は高いです。これは,コミュニティ・スクールとして,地域のひと・もの・ことを授業で活用したり,地域のボランティア活動の経験が多いことがうかがえます。地域や社旗をよくするために考えることは十分にできていないこともわかります。

≪授業について≫

○　⑨～⑬から,生徒たちが将来,社会に出たときに役に立つといった必要性を高く感じている教科である数学が学力調査の結果も高かった。授業においては,自分の考えを持ち,考えを深め広げる話し合い活動がやや不十分であることがわかります。

≪家庭学習について≫

○　⑭～⑰から,家庭での学習時間が少なく,また自分で計画を立てて,勉強することは不十分であることがわかります。

5 今後の取組について

1　わかる授業をめざした取組

今年度も昨年度に引き続き，中学校3年をゴール像として，9年間の学びで学力を身につけさせるために2つの小学校と連携し，共通の評価項目や授業像(授業の流れ)を決めて学習を行っています。

本年度は，授業の中で基礎学力の定着をはかるとともに言語活動を充実させながら，学び合い・振り返りを大切にした授業を行っていきます。具体的には，反復的なドリルや確認テストを実施したり，教え合いや習熟度別学習を行いながら知識や技能の確実な定着をはかります。二人組で行う「ペアスタ50」・「ペアスタ25」の取り組みで，「学び合い活動」を行うことで言語活動の充実させながら，思考力・判断力を伸ばしていきます。また，全国学力調査の過去問題や県立高校の入試問題などから，授業を構想し活用力を身につけるための授業づくりをおこなっていきます。さらに，毎年行っている生徒による「授業アンケート」の結果を分析し，学年・教科で共有しながら，授業改善を進めていきます。

2　家庭学習の習慣化と充実

生徒質問紙の結果をみると，昨年度に引き続き，家庭学習の習慣化が大きな課題と考えます。現在行っている自学ノートの取組や各教科における宿題，週末課題も含めて改善を行っていきます。この取組に関してはPTAや小学校とも連携を図っていきたいと考えています。

3　地域との協力

地域では，中学生のボランティア活動の場が増え，中学生の力が地域づくりに役立つと捉えられています。地域連携コーディネーターのリーダーシップの下，学校運営協議会を中心に，地域と連携した取組をこれからも提案していきます。また，全校で行っている補充学習には，地域の方に加え，高校生も参加していただいています。この補充学習のさらなる充実と時間外学習の在り方をこれから検討していきたいと考えています。